

日本建築仕上学会
女性ネットワークの会



トーヨー科建 株式会社 仕上げ
工事営業部 次長
森嶋 順子さん

◆現在の仕事に興味をもったきっかけ

父が建築関係の仕事をしていて、カータルやエジプトで現地の人に技術指導をした話などを聞いて育ちましたので、建築関係の仕事は身近な存在でした。

現在の会社に入社する前は、建築仕上げ材料の研究部門で塗装やシーリング材の研究補助をしていました。そして、これらの仕上材を利用することで古い建物がどのように再生されるのか見てみたい、関わりたいと思うようになり、この会社に入社しました。

◆現在の業務内容

ビルやマンションの改修工事を行っています。この仕事は、改修が必要な建物のオーナーへの営業から、建物の調査、見積、契約後の現場管理、引き渡しまでを一貫して行います。営業も兼ねているのは、どのように改修すればよいかをお客様に提案するためです。

ほぼ毎朝、直接現場に出勤し、責任者として現場の段取りを行います。職人さんに指示を出したり、施工主と職人さんの間を取り持ちたりして夕方まで過ごすことが多いです。4時過ぎに会社へ戻り、書類整理などを行っています。

◆仕事のやりがい・苦労

この仕事は、計画を立てて工事を始めても、うまくいかなかったり工程を変更しなくてはならないことがあります。試行錯誤して工事を終え、施工主に引き渡した

時はやりきった達成感を感じます。大変な思いをした分、喜びも大きいです。

改修工事では使っている建物を改修するので、騒音や異臭などのクレームにつながる場合があります。事前に要因を想定して計画しますが、それでも問題が発生して工事が暗礁に乗り上げることがあります。そのようなときは一人で考え込まず、職人さんなど人の意見に耳を傾けて打開策を見出します。

マンションの改修では、居住者にとっては私たちがいるだけで違和感があります。また、病院や食品工場などの稼働中の施設では、それぞれ気を付けなければいけない点異なります。クレーム窓口という立場なので苦労は多いですが、そんな経験が次の仕事に生かせると思っています。

現在勤務している千葉営業所ができた当初も大変でした。事務所で待っていて仕事に来るわけではないので、毎日自転車通勤で営業していました。見積を作成しても仕事につながらず成果が出ない日々でした。努力が実ったのは2年近く経ってからです。

◆かづけられた先輩の言葉など

入社するとき、当時の社長に言われた「これからは建築も女性が活躍する時代なんだから頑張ってみなさいか」という言葉です。「わからないところは教育するから挑戦してやってみよう」と言われて現場に入ることができました。



元請けさんからは、「女性だからって特別扱いはしない。だめなところは叱るし言いたいことは言うけど、頑張るってやれ」と言われ、それが励みになりました。

◆ライフ・ワーク・バランス(生活と仕事の両立)

高校生の息子、父、弟との4人暮らしです。家事はすべて母に任せていましたが、母が亡くなってからは私がすべて担当しています。息子の駅への送り迎えは家族で協力し、現場の朝礼指示、夕方の打合せ等ができるよう調整しています。

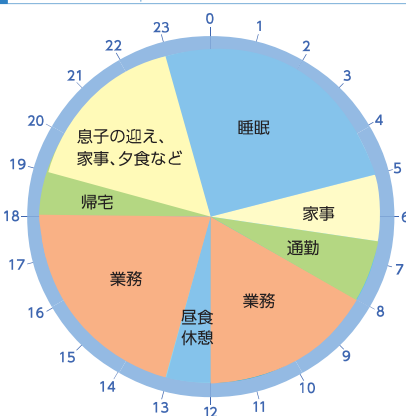
息子が幼い頃は今ほど育休や時短勤務などの制度が整っていませんでしたので、認可保育園と無認可保育園、小学生になってからは学童と無認可、休日出勤のときは両親の力を借りるなどして乗り切ってきました。仕事に就いて時間が経っていきなかつたので、できないと思われたくなく、意地を張って頑張っていました。

◆プライベート、休日の過ごし方

身体を動かすことが好きなので、ストレス発散はジム

タイムスケジュール

息子の送迎は家族で協力し、朝礼の指示や夕方の打合せができるよう調整しています。



で汗をかくことです。また、土日はだいたい息子の野球の練習や試合に足を運んで大きな声で応援しており、それもストレス発散になっています。

◆建設業界に入って感じたこと

現場に入って数年はいろいろと大変でした。20年前は現場に女性はほとんどいなかったのでも上司もどう指示したらいいかわからず、こちらもどうしたらいいかわからず、双方戸惑っていました。

トイレや着替える場所にも困りました。トイレは男女一緒でしたし、着替える場所がないので家から作業着を着て行ったこともあります。最近は女性も少しずつ増えてきたので以前のような心配はなくなりました。女子トイレは使用しやすいよう裏に設置してくれたり、通常は施錠して使用するときだけカギを貸してくれたりするようになりました。

◆職場環境の改善に向けた取組、課題

この業界も女性が増えてきましたが、女性が働き続けるためには、もっと子育て世代を対象とした制度の改善が必要だと感じています。結婚、出産、育児というライフステージを進んでいく女性が安心して働き続けられる態勢を充実させれば女性の数も増え、さらに女性が働きやすい環境の整備につながると思います。

◆今後の目標

もっとこの業界に女性が増えてほしいと思っています。入って来た彼女たちに、この仕事のすばらしさや、自分がこれまで得てきた経験、女性だからできること、建築業界の面白さなど、さまざまなことを伝えていきたいですね。

メッセージ

女性の戦力を求められている今、沢山の女性が建設業界に入り、実績を作ることによって、環境も更に進化していくと思います。一人一人が自身で建設業界を変える思いで飛び込んで欲しいです。

そして、結婚・出産・育児などのライフステージで職場を離れる時期があっても、自身の知識を生かして、仕事の楽しさを多くの方が再認識できることを期待しています。

